

【経営の概要】

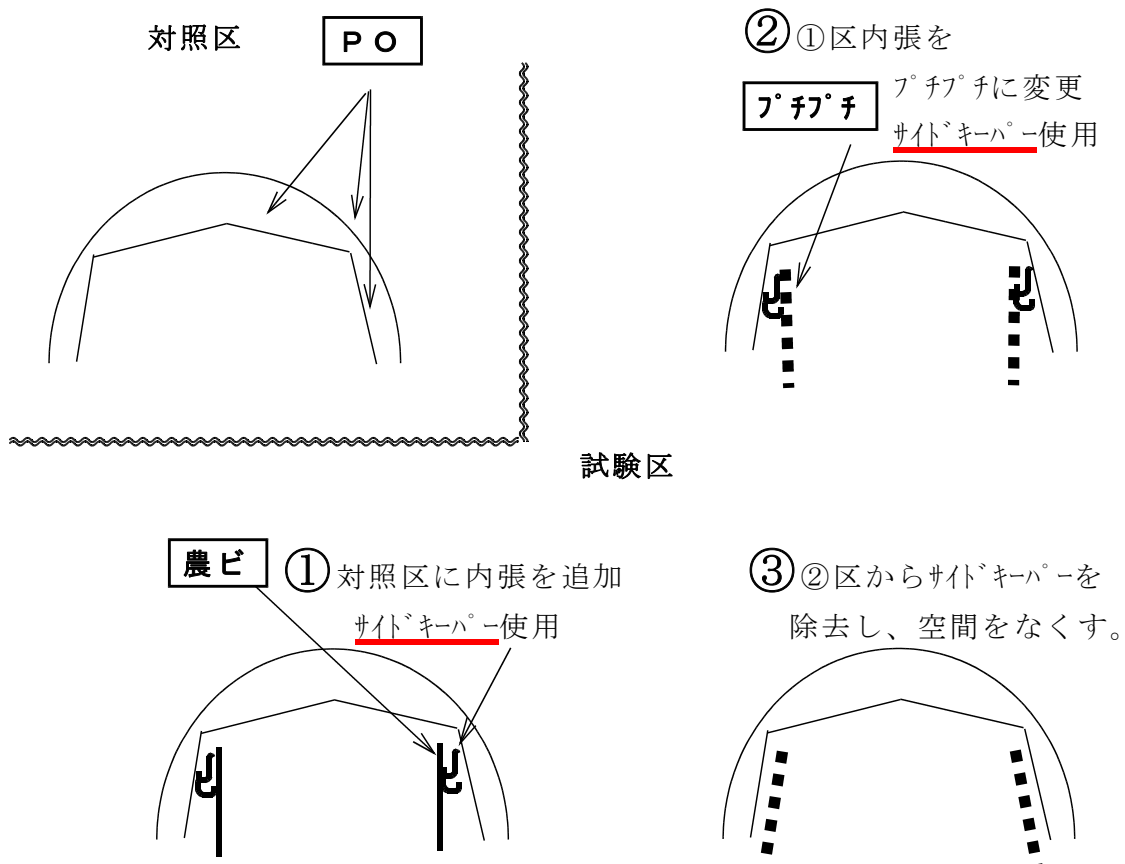
促成ナス（施設面積：25a）

播種期：7月上旬、定植期：8月下旬、収穫期：10月～翌6月

【対策の内容】

被覆資材の工夫による経済効果
(19年のデータ)

試験区（取組後）	対 照 区
①天井フィルム（PO：ポリオレフィン） 〔内張カーテン（PO） サイドキーパー+サイド被覆（農ビ） （取り付け器具） 内張サイドは合計2重〕	・天井フィルム（PO） ・内張カーテン（PO） 内張サイドは1重
②天井フィルム（PO） 〔内張（天井）カーテン（PO） サイドキーパー+サイド被覆（エコポカ） （取り付け器具） 内張サイドは合計2重〕	
③天井フィルム（PO） 〔内張（天井）カーテン（PO） サイド被覆（エコポカ） 内張サイドは合計2重〕	



【対策の実践効果】

加温機 機種燃費補正 済	設定温度 (°C)			
	早朝	日中	前夜半	後夜半
ネホ ^o ン 800 型	13.0	12.0	12.0	11.5

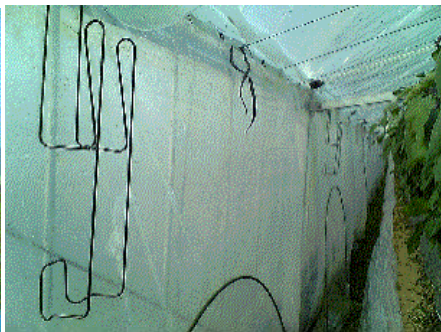
	10アールあたり						
	重油消費量(リットル/25aハウス)			節減率(%)	燃料削減※	年増加経費	経済効果
	1/24~2/5	2/15~3/6	3/6~3/10				
試験区①	1043.7			8.3	¥27,662	¥9,025	¥18,637
試験区②		1293.5		8.4	¥28,204	¥9,264	¥18,941
試験区③			247.0	4.1	¥13,597	¥5,194	¥8,404
対照区	1138.0	1412.8	257.5				

※年間消費量を一作あたり 3.93 キロリットル/10アール(実施農家3月中旬実績)として試算
経費は対照区(一重 PO カテン装備)に対し増加した経費

- ・暖房負荷がかかる時期(厳寒期、今回は2月上中旬)はフル稼働のため燃料消費量に差がなくなるが、通常の寒冷期には二重被覆+隙間を設けることによって燃料節減に効果があらわれた。
- ・測定時期が試験区により異なるため単純な比較はできないが、サイド被覆間に隙間をつくることは保温効果向上につながると思われる。



ナスの圃場



サイドキーパー+二重サイド被覆



エコポカ

【今後の課題】

- ・サイドのカテンの2重被覆時にカテンとカテンが均一な幅での設置が難しいこと。
- ・PO資材で裾部が安定しないため、冷風を入れ込まないように押さえる点が難しいこと。

【問い合わせ先】

熊本県 熊本農政事務所・農業普及指導課

電話：096-355-1511